

## タカキビ *Coneuplecta praealta* (Pilsbry)

### 【選定理由】

愛知県下では広く確認されているものの、生息数は少なく、発見自体も稀な種である。これまではウラウズタカキビが本種中に混同されていたが、明らかな別種であることが報告され、本種は従来の知見よりもさらに分布及び生息密度の低い種と判明した。本種は、主に山麓部や低山地の里山環境に生息するので、開発などによる生息環境および本種の減少が懸念される。

### 【形態】

殻長 4 mm 程度の微小種である。螺層数がきわめて多く、高円錐状の特徴的な殻形態であり、他種との識別が比較的容易な種である。細い円錐形とやや太い円錐形の 2 タイプがあり、繁殖生態型 (Euphally と Hemiphally の 2 型) と考えられている (早瀬, 2018)。Euphally の個体の雄性器官では、陰茎が一様の太さで長く、それを一様の太さの陰茎鞘が包む。Hemiphally の個体の雄性器官は委縮し小さくなる (上島, 1995)。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊田市 (川瀬・他, 2011; 2012)、新城市 (川瀬, 2014) などの分布記録が見られる。瀬戸市 (早瀬, 2008) や豊田市稲武町 (守谷, 2004) の記録は、ウラウズタカキビの誤認記録であった (早瀬, 2018)。

#### 【世界および国内の分布】

国内のみに分布が知られ、本州 (関東以西)、九州に広く分布する。四国にはサドタカキビの記録がある。

### 【生息地の環境／生態的特性】

本種は、林床の落葉上のほか、低木の葉裏に付着する個体が確認される場合が多く、特に幼貝ではその傾向が強い。薄暗く湿潤な森林環境下のアオキ類など常緑低木の葉裏で確認される。本種は 1 世代の寿命が 1 年程度の貝類で、特定の季節 (春～夏季) のみ成貝になると考えられる。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

本種は、山麓部や低山地の里山環境に多く見られる種である。このような場所は、開発により消失しやすい環境であることから、本種の生息環境も愛知県では減少傾向にあると考えられる。

### 【保全上の留意点】

本種の生息環境となる谷部などの薄暗く湿潤な森林環境の維持が必要である。

### 【特記事項】

生貝の発見がきわめて稀なので、愛知県内の個体に関しても類似種のウラウズタカキビと共に分類学的研究が遅れている。やや太い円錐形の殻の個体は、サドタカキビのタイプ標本の形状とほぼ一致するので、サドタカキビはタカキビの Hemiphally 型に過ぎず、異名と考えられる (早瀬, 2018)。また、熊本県や山口県のツシマナガキビ (熊本県希少野生動植物検討委員会, 2009; 西・潮崎, 2017; 矢野, 2019) とされる個体は、細い円錐形の殻であることから、対馬固有種と考えられるより細く長い殻を有するツシマナガキビではなく、Euphally 型のタカキビの誤認と考えられる。このように、ウラウズタカキビを含めて類似する殻形態の種が複数存在し、殻形態のみに頼る本種の同定はきわめて不確実性が高いので、正確な種レベルでの分類には生殖器官の検討が不可欠である。

### 【引用文献】

- 早瀬善正, 2008. 愛知県瀬戸市定光寺周辺における陸産貝類相調査, かきつばた, (33): 29-39.  
 早瀬善正, 2018. 東海地方で確認されたウラウズタカキビ, かきつばた, (43): 35-37.  
 川瀬基弘, 2014. 新城市の軟体動物, pp.1-24. in: 鳳来寺山自然科学博物館(編), 新城市の自然誌 昆虫・動物編, 335 pp. 鳳来寺山自然科学博物館, 新城市.  
 川瀬基弘・早瀬善正・市原 俊, 2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類, 豊田市自然史博物館研究報告, (21): 31-43.  
 川瀬基弘・村瀬文好・早瀬善正・市原 俊, 2012. 矢作川上中流域の河畔林に生息する陸産貝類, 矢作川研究, (16): 11-26.  
 熊本県希少野生動植物検討委員会 (編著), 2009. 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物-レッドデータブックくまもと 2009-. 597 pp. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本.  
 守谷茂樹, 2004. 愛知県初記録の陸貝 2 種, かきつばた, (30): 21-22.  
 西 邦雄・潮崎正浩, 2017. ツシマナガキビの新産地 (熊本県), 九州の貝, (89): 21.  
 上島 励, 1995. タカキビの分類学的位置, Venus, 54(2): 113-122.  
 矢野重文, 2019. ツシマナガキビ, p. 473. in: 山口県環境生活部自然環境課(編), レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物, 986 pp. 山口県環境生活部自然環境課, 山口.

### 【関連文献】

- 財団法人自然環境研究センター(編), 2010. 自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

(早瀬善正)

